

2 2 陳 情 第 1 0 号	新宿区立戸山第三保育園継続（廃園の見直し）のための陳情
付 託 委 員 会	福祉健康委員会
受 理 及 び 付 託 年 月 日	平成 2 2 年 2 月 2 2 日 受 理、平成 2 2 年 2 月 2 6 日 付 託
陳 情 者	新宿区新宿————— ————— 代 表 ————— ほ か ——— 名
<p>(要 旨)</p> <p>国立国際医療センター内に保育園が設置されることにより、新宿区立戸山第三保育園を廃園する計画がありますが、もう一度見直していただき、現在のまま、公立保育園として継続できますようお願い申し上げます。</p> <p>(理 由)</p> <p>1 戸山第三保育園は、新宿区の中でも特に緑豊かな箱根山周辺地区にあり、箱根山の頂上に最も近い区立保育園です。この園で育つ子ども達は、よちよち歩きの頃から土に親しみ、自然の中で育つことができます。このことは新宿区の保育園として誇るべきことです。戸山第三保育園では、この最高の立地条件を活かし、春は桜の花びらの中、夏にはさまざまな蝉の鳴き声を聞きながら、秋には落ち葉の舞い散る中、どんぐり拾いをしながらの保育が行われています。現在の計画では、「廃園」とはいても実質的には箱根山通りを隔てた国立国際医療センター敷地内（現在のつくし園のあたり）に統廃合されるのお話ですが、「大きな道路を渡らなければ箱根山に行けなくなる環境」というのは、幼い子どもにとっては天と地ほど違う環境になります。新宿区の子どものよりよい育ちのため、現在のままの保育環境を保っていただきますようお願いいたします。</p> <p>2 国立国際医療センター内保育園は 1 3 0 人規模とのことですが、戸山第三保育(定員 1 0 0 名)とつくし園(定員 2 0 名)を合わせたより 1 0 名多いだけで、さらに病児・病後児の枠を考えると定員は同じままです。待機児童対策を考えれば、国立国際医療センター内保育園を新設し、地域の保育園として戸山第三保育園も残すというのが本当ではないでしょうか。</p>	

- 3 新宿区は、他の地区で保育園を増やし、待機児童解消につとめているとお話ですが、この周辺では、西光庵保育園、新宿第一保育園、薬王寺保育園、北山伏保育園と廃園は続いています。原町みゆき園はできましたが、この周辺地域の保育園は増えているとはいえ、むしろ減り続けています。待機児童解消のためにも戸山第三保育園は現在そのまま継続して下さるようお願いいたします。
- 4 国立国際医療センター内に新しく保育園がつくられるということですが、そこからなぜ「戸山第三保育園を廃園」しなければならないのでしょうか。「総合的に検討した結果」というだけでは、具体的なデータや詳細資料がなく、理由が明確ではありません。
- 5 今回の話は、つくし保育園の認可を求める運動がもとになっているようですが、この運動は、もともとは、つくし保育園が2歳児までしかいられないため、入園した児童が就学前までいられたらという願いから始まったことで、長い間の功績が地域住民の多くの賛同を得て、認可の承認を受けたものです。戸山第三保育園を廃園することは民意ではありません。もう一度考え直して下さるようお願いいたします。
- 6 新宿区は「みどり豊かな新宿」を方針としてきました。1でも述べましたように、戸山第三保育園においては、新宿区が大切にしてきた豊かな緑の中で、情操豊かな保育を今日まで継続されてきています。このことに対し、私達保護者は深い敬意を払うものであります。新しくできる保育園には病児・病後児保育もあり便利になるかもしれませんが、人数がとりあえず間に合うからというだけで、戸山第三保育園を廃園にするのは理由が明確ではありませんし、情操豊かな保育を失うことへの配慮が欠けているものと思われまます。みどりを大切にする新宿区の施策の中で、現在の戸山第三保育園を継続して下さるよう重ねてお願いいたします。